

- 堤防の決壊や越水等に伴う氾濫に備え、河川管理者、北海道、市町村等の関係者が連携して減災のための目標・取組方針を共有し、社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築することを目的とし、ハード・ソフト対策を一体的、計画的に推進しており、その取り組み状況についてのフォローアップ等を行うため夕張川上流地域部会を開催した。

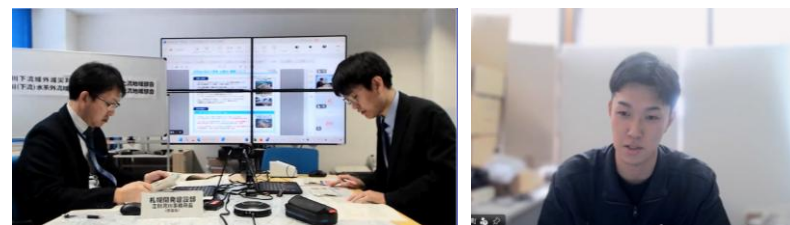
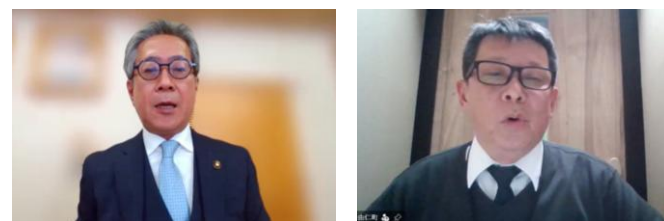
日時：令和8年2月18日（水）10:00～11:00

開催方法：WEB会議

構成員：北海道開発局（札幌開発建設部）  
夕張市、由仁町、栗山町  
気象台（札幌管区気象台）  
北海道（空知総合振興局、札幌建設管理部）  
北海道警察

オブザーバー：国土地理院（北海道地方測量部）  
北海道運輸局  
北海道旅客鉄道株

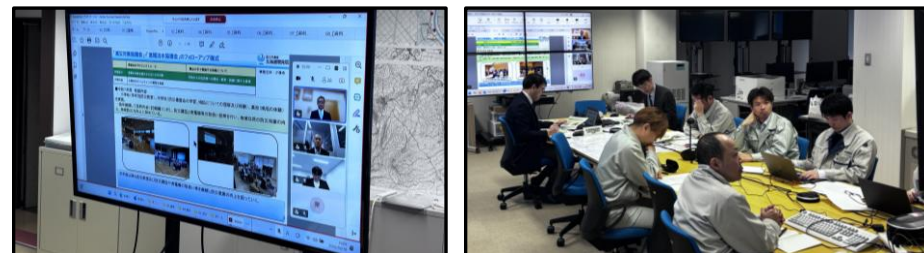
地域部会の様子（WEB開催）



自治体等主な会場

## 報告のあった自治体の取り組み事例

- ・ 小学校では学年別防災講話、中学校では段階的に学ぶ内容を深め避難所運営ゲーム（HUG）の実施。
- ・ 仮設トイレの設置訓練、大雨を想定した避難経路を考えるワークショップを実施。
- ・ 北海道地域防災マスター認定研修の実施
- ・ 暴風雪への備えについて広報の活用
- ・ 防災教室及び防災講話や発電機の取扱い等、防災意識の向上
- ・ 避難所での熱中症対策についての防災講話など実施など



江別河川事務所

※写真を掲載しているのは参加者（会場）のうちの一部です



夕張市長

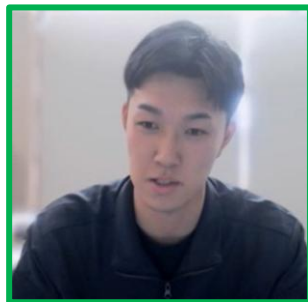
- 小学校一年生から学年別の防災講話を実施、中学校では自然災害リスク・地域の避難所開設・避難所運営ゲーム(HUG)の実施といった学年が上がるにつれ段階的に学ぶ内容を深めている。自助共助の大切さを理解してもらえていると考えている。
- 酷暑期・寒冷期における事前防災の取組について、暴風雪への備えについて広報に掲載。毎年、発電機や照明器具などを中心とした安心安全備品の整備を実施。市内20箇所の集会所などで実施している防災講話で、冬の防災対策について参加者に説明を行っている。市としては、できるところから対策を講じていきたい。



由仁町長

代理出席：総務課

- 災害協定を締結している企業と避難所開設運営訓練の一環として、仮設トイレの設置訓練を実施。札幌管区气象台による大雨を想定した避難経路を考えるワークショップを実施し職員の識能の向上を図っている。
- 酷暑期・寒冷期における事前防災の取組について由仁町防災訓練を実施。災害対策本部員会議(設置訓練)による災害対処能力の向上、職員を対象とした「自らが何をすべきか」を考えさせる避難所開設・運営訓練を実施している。
- 「要配慮者への対応」に焦点をあて、個別避難計画を整備。(毎年、確認・更新を実施)



栗山町長

代理出席：総務課

- 「北海道地域防災マスター認定研修」の参加者募集については、町内会、自治体、連合町内会の会長さんに案内文を渡し周知していただき、町のHPも活用、防災教育時に宣伝、役場内での周知を実施。参加者については町民、役場職員、町外(近隣)の方もご参加いただいた。
- 酷暑期に関する事前防災の取り組みとしては毎年8月又は9月頃、自然災害発生を想定した訓練(総合防災訓練)を実施、今年度はイベント TENT を設置し参加者の体調に配慮した。今後の取り組みとしては、酷暑期の避難に重点を置いた訓練、避難所での熱中症対策についての防災講和など実施していく予定。
- 寒冷期に関する事前防災の取り組み(冬季間に震度4以上の地震が発生した場合)について、防災学習で令和6年能登半島地震についての講話を開催。



夕張川上流  
地域部会長  
江別河川事務所長

- 酷暑期・寒冷期における事前防災について、各自治体が熱中症対策や暴風雪時の避難対応など、多岐にわたり検討されていると感じた。参考となった取組内容については、各自治体において今後取り入れていく検討をしてもらえると幸いである。
- 住民等へのリスク回避にあっては、避難者受け入れ準備の他、防災無線や緊急速報メール、地域アプリ、SNSなどを活用した多様な情報伝達体制の構築と、その手順の明確化が重要である。また、高齢者や児童、障害者などの見守り体制、季節に合った自助共助の体制強化も求められる。
- 季節ごとの避難リスクやインフラの脆弱性、異常気象の頻発等を踏まえ、地域防災計画等は、世代の生活形態の変化に合わせ、定期的に見直すことが重要。官民連携やインフラ管理者との協働により、関係者一体となって今後も減災対策等に取り組んで参りたい。